

地域で生活する障がい者を応援する「からしだね館」の旬な情報をお届けする機関誌

# からしだね通信

2023 8

VOL.59

- 1. 巻頭言
- 2~9. 「就労支援」ってこれでいいの？  
就労支援事業所が集まって意見交換会  
厳しい現実や腹立しい事例 etc...
- 11. 収支報告
- 12. お知らせと編集後記

## 隣人（となりびと）再考

理事長 坂岡隆司

先日、からしだね館で「隣人（となりびと）を考える」という学び会をしたのですが、そのおりに参加者のお二人が、こんな詩を紹介してくださいました。

遠くのできごと 人はやさしい ……

近くのできごと 人はだまりこむ ……

遠くのできごと 人はつつくしく怒る ……

近くのできごと 人は新聞紙とおなじ声をあげる ……

(…は略)

石川逸子「風より

遠くのできごと 人はつつくしく怒る ……

何か胸をズンと突かれた思いがしました。

私たちは、社会の不正義や、不条理を前にして、正論をかかげて怒り、嘆きはするが、果たしてどこまでそれを自らのこととしているか。いったい自分はどうなんだ、と。

隣人といえば、「良きサマリヤ人」というイエスのたとえ話が有名です。強盗に襲われた旅人のそばを通りながら、祭司も、レビ人も見て見ぬふりをして通り過ぎました。でも、最後に通りがかったサマリヤ人は、彼を見てかわいそうに思い、助けてやった、というお話です。そして、イエスは、こう問うのです。だれが、強盗に襲われた人の隣人（となりびと）になったと思いますか、と。

今春、改正入管法が強行採決されました。日本で暮らす難民、外国籍の方々への支援者たちの懸念や反対の声を押し切って。

その頃ニュースを見ていたら、昨年夏の参議院選で議員になった方が、法案賛成演説に元氣よく拍手をしている姿が映っていました。その方が選挙演説で「やもめ、みなしご、在留米国人、食いし者を虐げるな」という旧約聖書の言葉を引用しながら、自分は地の塩世の光として「隣人愛」を国会へ届ける、と訴えておられたの思い出し、唖然としてしまいました。

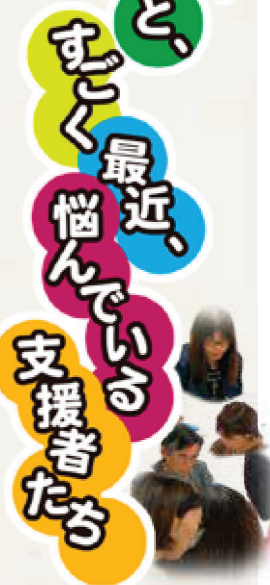
亡くなった中村哲さんは、こんな言葉を残しています。

「自分は言葉ではなく、行動を信じる。」

まさかこの隣人とは誰でしょう。

月 日 ( ) 天気

# 「就労支援」って、これでいいの？



からしだねワークスの就労支援事業所としての歩みは、「精神障害者通所授産施設」だったころから数えると、この6月でちょうど十七年経ちました。社会福祉制度が大きく変化し、社会全体も変容していくなかで、今の障がい者就労支援の在り方について、「これほんとにいいの？」と疑問を感じることも増えてきました。そしてこの疑問、じつはからしだねだけが感じていたわけではないのです。

ということで、同じく就労継続支援事業所を運営している事業所さんたちにも集まっていただいて、ざっくばらんな意見交換会をやってみました。そこで浮かび上がった厳しい現実、腹立たしい事例とは、いったい……？



からしだね館のからしちゃん、就労継続支援B型事業所「からしだねワークス」の施設長に聞いてみました。

からし：いきなり現実的でシビアな質問からいきま。障がい者の就労支援事業って、どこからお金が入ってくるの？

施設長：さすがは、からしちゃん！お金の話は、すごく大事。

からし：職員のお給料、水光熱費、建物や備品のメンテナンス費用、車や機械の買い換え、借入金の返済……。どこから収入を得て、どこから支払ってるんですか？

施設長：公費です。たとえばですが、一人の障がいのある利用者さんが、からしだねワークスを利用すると、一日あたりおよそ7,000円の利用料が、からしだねワークスに「報酬」として入ってきます。これは、「障害者総合支援法」という、障がいのある人の「福祉」の在り方や制度を定めた法律のもとで、国が定めた利用料です。この利用料のうち、1割が利用者の自己負担、あとの9割は、国・都道府県・市町村が分け合って負担し、からしだねに入金されます。ただし、自己負担金も、利用者の所得によって上限があるので、実質、自己負担なしの人が多いです。

からし：ということは、たとえば一人の利用者さんが月間20日からしだねワークスに来て就労訓練を受けたとしたら、7000円×20日＝14万円が、ほぼ公費から入ってくるということだね。それで経営的に、足りてますか？

施設長：国は、儲けを出すことを前提にして、報酬単価を設定してないので、ぎりぎりです。このところの物価上昇で、ますますつらい……。

からし：そ、そうなんだ……。ところで今施設長が言っ

施設長：その通り！その人にとっての「自立」が何なのか、どうすれば「自立」に近づけるのかを、利用者さんと一緒に考えて、「自立」に近づけるようにたすけるのが、支援をする人の役割です。どんな作業内容で、何を目標に、どんな訓練をするのか、利用者さん本人と話し合っって、「個別支援計画」というものを立て、その計画に沿って、客観的なアドバイスをします。仕事をする喜びは、それが対価として返ってくることもあるので、からしだねワークスの場合は、訓練をしながら働いた分、工賃が支給される、就労継続支援のサービスをしています。

からし：何回も言うけど、障がいのある人が、「地域」で、「自立」した暮らしをすることが、「障害者総合支援法」で目指している「障がい者福祉」なんだね。

施設長：そう、そこが一番大事なポイントなんです！まず「障害者総合支援法」という法律があって、この法律の趣旨と目的の根っこには「福祉」があります。だからこの法律の趣旨と目的に基づいて、障がいのある人は、福祉サービスを利用して、支援者は支援します。利用者も、からしだねワークスのようなサービス提供事業所も、支援者も、基本的にこの法律の趣旨と目的から外れてはいけないわけです。

からし：そもそも「福祉」って、いったい何ですか？  
施設長：一言では言えないけど、一言で言ってみますね。「人の幸福な暮らし、生き方を、社会として実現させること」かな？じゃあ、幸福な暮らしとか生き方とかって、何？ということになりますよね。これは「人とはどういう存在なのか？」「人はなぜ生きるのか？」「人の幸せって、何？」というような、哲学的な探究から始まります。福祉に哲学が必要だと言われるのは、そういう理由だと思います。そしてそこが、「お客様は神様です」的な行き届いたサービスを提供するビジネスと、「福祉事業」のサービスが、

た、「障害者総合支援法」って、どういう法律ですか？  
施設長：障がい者が、自分が暮らしたいと望む場所（地域）で、「自立」して生活することを目指す「福祉」の法律です。だから、全国共通の「自立支援（介護給付・訓練等給付・地域相談支援・計画相談支援・補装具・自立支援医療）」というサービスと、市町村が地域の実情に応じて行う「地域生活支援事業」というサービスがあります。

からし：キーワードは、「自立」と「地域生活」なんだ……。それが、日本の国が目指す障がい者の「福祉」ということ。

施設長：そのキーワード！すごく大事なポイントです。からしだねワークスがやっている「就労継続支援A型・B型事業」は、全国共通の「自立支援」の事業の枠組にあり、「訓練等給付」というサービスの中に入っています。

からし：なるほど。からしだねワークスでは、障がいのある人が、「仕事をすることを通して」「自立」するために、「訓練」をするサービスを担っているということ？

施設長：そうですね。もともと「自立」とは何か？そのためにどんな「訓練」をするのか？人によって全然違います。

からし：人によって全然違っていいの？統一した方がわかりやすいし、不公平感がないし、効率的じゃないですか？

施設長：障がいのある人は、みんな一人ひとり違うでしょ？だから、ある人にとっての「自立」は経済的な自立かもしれないけど、ある人にとっての「自立」は、他の人の手を借りながら一人暮らしをすることもかもしれない。それぞれの目指す「自立」によって、訓練のやり方や目標も変わってきます。だから、障がいのある利用者さんそれぞれの目指す「自立」の

違うところなんだと思います。  
からし：なるほど。まず第一に、「地域」で「自立」した生活をしたと望む障がいのある「人」がいる。  
施設長：その次に、その「人」の「地域」での「自立」を支援するために、「福祉」のサービス提供事業所と「福祉」の専門支援者がいる。その根底には、「福祉の哲学」がある。

からし：あ、それを聞いて、ちょっと思い当たることが……。最近毎日のように届くダイレクトメール、あれ、いつも違和感あるんですよね。「集客率、稼働率100%可能な、障害者就労支援事業のノウハウ教えます。初めての方でも経営可能。安定した収益の実現が可能です」って、どっかのコンサルタント会社から送られて来るやつ。

施設長：たしかに。あれ、なんでひっかかるんだと思いますか？  
からし：うーん。今、施設長と話したような内容からすると、そもそも「福祉」じゃないよね、と感じます。なにより「客」という言葉をキヤッチフレーズに使ってしまえるための無さ、無頓着さ、危うさ。ちゃんと福祉をやるうとしていないのかと思います。「客」という言葉には、支援が必要な一人の「人」という視点が見えませんか。「客の要望」を最大限かなえて、客を逃がさないようにする努力はあっても、「うちに来たら、こんなにいいことがあるですよ。お得ですよ」と「おやつ無料で食べ放題」みたいなお得感をちらつかせながら、最大限アピールする。「客」を呼び込み、抱え込み、常に「客」で「満杯」にして、売り上げをマックスにした状態を維持管理する。そのための「ノウハウの伝授」いうことだと思えます。

からし：そう言えば、ずいぶん前、「うちの会社、つ



# 意見交換会でのご意見

## 「就労支援」って、これでいいの？と、最近、すごく悩んでいる支援者たちの声

### 4か所の事業所から9名の支援者の方に集まっていただき、座談会をしました。

- 「作業中、集中力が持たないとか、疲れたって、〇〇さんが言ってますよ。もっと休憩時間を増やしてあげてください」「え？作業中、めっちゃ元気におしゃべりして、職員に注意されてます」
- 私はいつも利用者さんに「一円でもお金をもらえんやったらプロの仕事なあかんで」って言うんですけど、間違ってる？
- ある就労支援事業所に通っている人から「ひどいと思いませんか？」って怒りの訴えがありました。その事業所の作業というのが、折鶴を折る。袋いっぱいになると、職員が「ほな捨ててくるわ」とゴミ置き場に捨てに行くのだそうです。それを利用者さんの前で平気でやれてしまう感覚はいいじゃないですか。こういうのを虐待っていうのではないのでしょうか。
- 就労Bを、「居場所」「友達作りの場」と打ち出す事業所があるのもいいと思います。ばりばり仕事モードの事業所から、「居場所」「交流の場」までいろいろある方がいいです。でも、「就労」という名前がついている限りは、そこで請け負った仕事、作った商品はいい加減に扱ってはいけません。折鶴折って捨てて、それが仕事です、というのは、仕事を馬鹿にしてる。働く人を馬鹿にしてはいけません。
- グループホームを運営しています。日中に就労支援事業所に通っている人が、なかなか起きてこないの、起こしに行くと、「眠たいし、休む」と。「あなた、一般就労したいって言うてたでしょ？眠くても仕事に行く。やりたくないことや、しんどいことがあっても、多少は我慢するのが仕事でしょ」「厳しいなあ。もっとゆるいグループホームに引っ越そうかな」
- 「職員に、こきつかわれている。就労支援事業所なのに、仕事を丸投げされた」と言っていて、辞めていった人が「友人に、事業所でどんな仕事をしているかを話したら、『就労支援で障害者に仕事を任すなんて、ネグレクトや、ブラックや』と言われました」とのこと。いやいや、あなたならこの仕事を任せても大丈夫と思うから信頼して任せたいのに。仕事を任せられるって、誇りに思っていることではないの？障害者だから、仕事を任せないでください、なんて、どうしてそんな悲しいことを言うのですか？
- 仕事って、協力して、一緒に汗流して、苦労して、よかったなっていうものだと思います。それを職員と利用者が一緒にやって、お互いに働く喜びを共有する。そういう体験をするのも、就労支援事業所の役割だと思います。それが古いと言われたら仕方ないんですけど。

- 利用者の声、他の事業所から聞こえてくる声の中に、「え？なんで？」と疑問を感じる事が増えています。うちの事業所だけがそうなのかと思ってたら、いろんなところで同じ疑問を感じている事業所が多いようです。なぜそうなったのか？
- 世の中の風潮が正しいのか？私の考え方が古いのか？
- 障がい者を取りまく世界も、就労支援事業所を取り巻く世界も、ものすごく変わって来ていますよね。
- 「働く」って、どういうこと？という根本から問い直さないといけないのかな？障がい者の就労支援の現場も、日本の中の「働く」の一部なんですから。社会全体の「働く」意味や意識の変化が、障がいのある人にも、影響しているのを感じます。
- 我々はどんな就労支援を目指していくべきなんだろう？
- 疲弊して、空しくなって、自分の事業所だけでは、この状況をどうやってプラスに変えていったらいいのか分からない。

## 就労支援事業所って何をするとところ？

- 最近、「商売として」就労支援を始める事業所が多いと感じます。そのすべてを否定するつもりはありませんが、今まで我々が大事にしてきたものは、崩れて行っていると感じます。
- 本来の姿だと思える「就労支援」のあり方と、どこがどうちがうのか？整理して区別していくことが必要だと感じます。
- 小さい福祉事業所が連携して、職員研修や職員募集、物品の購入などを合理化していきましょう、という動きがある。「連携」というのが、つながりや連携は大事ですが、小さい事業所の多様性、個性は、福祉だからこそ大事。だって利用者は多様性にあふれ、個性にあふれていて
- 就労支援に、何が求められているのか、最近わからなくなっています。利用者さんと一緒にやって来る支援者や行政の人が、「作業時間の中で、〇〇さんのお話を聞く時間を作ってあげてください」って。「え？うち言う、ええっ？厳しいんですね」…厳しいのかなあ…？
- 「保護費を取りに行つてあげてください」「歯医者について行ってあげてください」と言われるのですが、それ、就労支援事業所のやること？
- 「ここはお昼寝の時間がないの？じゃあ、お昼寝できる事業所を探します。この人は一般就労目指してがんばってるんだから、お昼寝の時間をもうけるとか、お昼寝用の布団を常備するとか、ちゃんと配慮してあげてくださいね」とついでにきた支援者に言われ、？？この人は一般就労目指してはる人ですよ…？

## 就労支援事業所って何をするとところ？

ぶれそうなので、持ち直すために、就労継続支援B型事業所作ったんですけど、人が集まらないんですよ。どうしたらいいですか？」と聞いてきた人いたね。

**施設長**：「利用」する時代になったんだと、びっくりしました。今なら、さっきのコンサルタント会社のところに行ってるんじゃないかな。

**からし**：でも、施設長もよく、「利用者さんの数を確保しない」と、言ってるよ。あれは、どうなの？

**施設長**：残念ながら、今の制度では、簡単に言えば、利用者数⇨収入なんです。事業所をつぶさないためには、ある一定の収入⇨報酬⇨利用者数が必要。ましてや質の良い支援を維持していくには、良い人材が必要ですよ。うちは、社会福祉法人なので「儲ける」必要はありませんが。

**からし**：なるほど。そうすると今の報酬制度っていうの、これも問題ありそうだね。それと、株式会社の場合、利益を追求することになるから、そこで社会福祉法人とは決定的に違ってくるかもしれない。

**施設長**：それはあるでしょうね。利益が出なかったら簡単にやめてしまうところもある。

**からし**：「支援が必要な人がいるから、事業所を作り、支援の場を守るために経営努力をする」のか、「お金の儲けのための手段として福祉事業を立ち上げ、そのために必要な利用者確保する」のか、という発想の違い。これは、大きいね。

**施設長**：利用者は福祉サービスを「利用する人」であると同時に、事業所の金儲けのために「利用される人」にも、なり得る。

**からし**：でもね、利用者にとってメリット（得）がある事業所だから人が集まるんでしょ？魅力的なメリット（得）。メリットを（得）提供し、見返りとしてお金を儲ける。ウィンウィンの関係。何も問題ないのでは？

**施設長**：そのメリット（得）を手にして、その人が本当に幸せになれるならね。でもそこで思い出ししてほしいのが、さきほどの「障害者総合支援法」の趣旨や目的です。もちろん、完璧な法律だとは思わないけど、目指すところは間違っていないと思う。それから大切なのは「人間の幸福とは何か？」という哲学なんですよ。瞬間的に「得した」と思って飛びついたことが、はたして、本当にその人の「自立した」「地域生活」を実現することになるのか？幸福な暮らし、生き方につながるのか？

**からし**：たしかに。「得」だったはずのものが、「人」の幸福を壊し、暮らしを壊し、生き方を壊す、ということがあがる。

**施設長**：たとえば「無料」って、メリット（得）だと思っ？

**からし**：ちょっとうれしくなって、飛びついたくなる言葉ではある。でも、私は警戒するかな。ただ怖いものはないって言っし。

**施設長**：そうですね。でも、騙されるかも？という怖さだけではありません。「無料」「ただ」で物もらい続けることが、はたして幸せなことなのか？人の誇りや尊厳をじわじわ破壊していくことにならないのか？自立しようという意志を、蝕み萎えさせることにならないか、ということですよ。

**からし**：なんだか恐ろしい話になってきた。

**施設長**：そういう事業所側の安易な「メリット」の打ち出し方が、とても気になります。支援の逆を行くようなものになってないか？

ある事業所だから人が集まるんでしょ？魅力的なメリット（得）。メリットを（得）提供し、見返りとしてお金を儲ける。ウィンウィンの関係。何も問題ないのでは？

**施設長**：そのメリット（得）を手にして、その人が本当に幸せになれるならね。でもそこで思い出ししてほしいのが、さきほどの「障害者総合支援法」の趣旨や目的です。もちろん、完璧な法律だとは思わないけど、目指すところは間違っていないと思う。それから大切なのは「人間の幸福とは何か？」という哲学なんですよ。瞬間的に「得した」と思って飛びついたことが、はたして、本当にその人の「自立した」「地域生活」を実現することになるのか？幸福な暮らし、生き方につながるのか？

**からし**：たしかに。「得」だったはずのものが、「人」の幸福を壊し、暮らしを壊し、生き方を壊す、ということがあがる。

**施設長**：たとえば「無料」って、メリット（得）だと思っ？

**からし**：ちょっとうれしくなって、飛びついたくなる言葉ではある。でも、私は警戒するかな。ただ怖いものはないって言っし。

**施設長**：そうですね。でも、騙されるかも？という怖さだけではありません。「無料」「ただ」で物もらい続けることが、はたして幸せなことなのか？人の誇りや尊厳をじわじわ破壊していくことにならないのか？自立しようという意志を、蝕み萎えさせることにならないか、ということですよ。

**からし**：なんだか恐ろしい話になってきた。

**施設長**：そういう事業所側の安易な「メリット」の打ち出し方が、とても気になります。支援の逆を行くようなものになってないか？

**からし**：では、からしだねの目指す就労支援って、何？

**施設長**：本当にしつこいようですが、そしてあたりまえのことなんです、地域のなかで、自立した幸せな暮らしや生き方をするための支援です。

**からし**：働いて、自分で稼いだお金で生活すること？

**施設長**：それもあっていいよ。でもそれだけではないです。「働く」ことを通して、社会とつながっている感覚、社会・地域の一員として、何かの形で誰かの役に立っている実感が、人の気持ちを安定させてくれる。自分が汗を流して働いて得た対価は、お金であれ、誰かの「ありがとう」という言葉であれ、そのつながりを実感させてくれるものになります。

**からし**：自分にとっての自立とは、一般の会社やお店で働くこと。それを目指して、訓練するためにからしだねワークスを利用している、という人もいるね。

**施設長**：そういう人は、とても多いです。

**からし**：そういう形の自立を目指す人にとって、一番必要なことって、何でしょう？

**施設長**：一般の会社やお店で働くときに必要な最低限のマナーと体力を、からしだねワークスにいる間に知ってほしいし、身に付けてほしいです。でもそれが完璧にOKにならないと就職できないかという、そんなことはないと思うんです。それは私だって同じで、わかっていないこと、不完全なことだらけ。「自分にはダメなところも、わかっているけど、そこもある。だから教えてください。せいっぱいがんばります」という姿勢、態度を持つことができた人が、本当に「自立」できる人なんだという気がします。障がいのあるなしに関わらず。



## 横のつながりが怖い？

- 福祉事業所どうしの「横のつながりが大事」っていうけど、それっていいへんなめに合いました。うちが一個2円で引き受けていた仕事を、「横のつながり」の気安さで内情をうっかり話してしまったんです。しばらくして内職作業の請負先から、「仕事がなくなりました」と言われて、「横のつながり」の事業所が、一個0.1円で引き受けていることが判明。悔しいのもあるけど、0.1円の仕事を受けて、どうやって利用者に工賃を払ってるの？
- たぶん、グループホームなんかで一人で利用者に対応している職員は孤独だと思います。だからグループホーム同士の研修会にも参加させてあげたい。でも、そこで、職員士の給料や待遇の話に関心がいって「あそこの仕事は楽そう」みたいになって辞められたら困るな、と考え込んでしまいます。そんなことではいけないのはわかっています。でも現実にはそうです。もっと、本当に職員の福祉の仕事へのやる気につながるような研修会があったらいいなと思います。
- 高齢者の介護保険分野は、障害分野以上に横のつながりを作れないと聞いています。「客の取り合い」状態に陥って。職員も「あっちの方が待遇がいい」としよっちゅう移動する。「介護とは何か？」という本質的なことを一緒に考えじくく、話し合えるようなつながりはもちにくく、職員争奪戦のライバル事業所どうしになってしまふ。障害の分野もそうなりつつあるのでしょ
- そうなるほどどんどん萎縮して、風通しが悪くなり、外の風が入らなくなりますが、虐待や不正が行われても、見えにくくなります。良い情報も入ってこなくなります。

## 無料 お得 ラクチンの間

- ネットやチラシにある就労支援事業所の新規オープンの広告を見て、「ここは、お弁当が無料。おやつまでついてくる。ここに行こうかな」となる。うちの事業所では、お弁当は出ますが実費です。お昼ご飯代は、自分で働いてその工賃から出しましょう、と言ってるのですが…。
- 「A事業所では、花見に行って、美味しい弁当無料で、時間給もらえるらしい。ここは、ケチやな」と言われました。
- みなさんの話を聞いていて、笑い話じゃなく、現実的にそれがあるといのが恐いです。うちの事業所も、利用者さんにちゃんと栄養のあるご飯を食べてもらいたくて食事提供してるけど、ご飯代無料の事業所があればそちらに行きたくらいなと思います。一生懸命こつこつまじめに作業に取り組んでた人が、ネット情報で「時給200円以上」というところを見つけて、そちらに移りました。その方は、その後もしよっちゅう電話してくるんですが、どんな作業をしているのか聞くと「職員さんと遊んでるだけ」とのこと。「それで一時間200円もらって、なんとも思いませんか？」って言ったら、「楽しんで、こっちの方がいい」って。あれだけいい笑顔で頑張ってた人がこんなふうになるのって、ぞっとする変わりようでした。思わず「もうちょっと、自分でやれる仕事を探したら？」と言ってしまった。うちは工賃を200円も出せなかったけど、その人と一緒にがんばってきたことだけは事実です。
- 「高い工賃」「無料のご飯」がぶら下がっていたら、そっちにパッと行きたくなる心理を利用して、「釣る」新規事業所が増えています。いったいどこから工賃のお金を捻出しているのでしょうか？不思議。

## 職員の仕事って？

- 工賃を捻出するだけの仕事を作る、とってくるのは、本当に大変です。利用者それぞれの特性に合わせてたくさん種類の仕事を用意することになります。そうすると、あれやこれやと手を伸ばすことになり、仕事の種類はどんどん増えます。職員の手もかかります。〇〇さんのために、あえて残しておいた作業も、〇〇さんが休めば納期に間に合わせるために職員が残業して仕上げることになります。就労支援の仕事は、予測不能です。
- 役所に提出する報告書、様々な記録、こなさなければならない会議などの事務量は増えるばかりです。利用者経験値を上げてほしいから、施設の外に出て働く仕事も取っています。でもそこにも職員を配置しないとイケない。「施設外就労加算」はなくなったのに、報告書だけは出さないとイケなくて…。
- 利用者さんの支援でやることはいっぱいなのは当然です。でも、支援以外の仕事が多いですね。その割合はどんどん増えてきています。
- 「職員に働かされている。私たちの環境をよりよくするために、汗流すのが職員の仕事でしょ？私が汗流すんじゃないでしょ？」と利用者さんに言われると、だんだんわからなくなってきました。生活介護は生活介護で大変なんだろうけど、そっちの方が職員の仕事としては、はっきりしていてわかりやすいのかな？

## 在宅支援の間？

- コロナで、今までだったら基本的に施設に通所する支援しか許されてなかった就労支援が、「在宅支援をやってもいいよ」となりました。一日二回の電話での連絡と記録。一週間に一度、職員が利用者から様子を聞き取るという条件をクリアし、在宅でできる仕事をする、ということなんですが…。
- うちは在宅支援、やってません。利用者さんが、家にこもるようになってと思います。コロナが収束しても、外に出なくなります。不健康です。コロナの間も、感染予防にものすごく神経使いましたが、通所のみで通しました。大変でした。
- うちも、ごく限られた人に限定して、在宅の仕事をしてもらっています。「内職なんて簡単すぎてやる気が起こらない」という人に限って、不良品を増産します。折る、糊付けする、袋詰めする、簡単そうに見えて、じつはピシッときれいに仕上げるのはとても難しいです。いろいろな利用者さんの仕事ぶりを見ていて、単純作業がきちんとやれる人は、逆にその仕事の難しさがわかっている人で、そういう人は、複雑な仕事もできるなと思います。
- 「在宅支援は、簡単でおいしい支援だ」と言ったある事業所の職員さんがいました。「利用者が休むということがないので、毎日最大限の数の利用者をカウントして最大限の報酬が請求できる。利用者が通所してこないから職員も楽ちん」なんだそうです。それで質問したんです。「在宅で一人でも任せられる仕事を、利用者さんの得手不得手に合わせて割り振って回収していくのは、けっこう難しいですよ？」って。そうしたら「いや、簡単ですよ。一番簡単なブロックの組み立てをやらせてもらおう。Aさんに組み立ててもらって、それを回収して、今度はBさんに外してもらおう。その指先訓練を延々と繰り返します。商品ではないので、職員の検品もいらない」とのこと。「それで、その工賃はどこから出るの？」と聞くと「うちには、『おおもと』の親会社があるから、そこから仕事を受注したことにして、利用者さんに払う工賃分のお金を回してもらおう。利用者には月額一万五千円の工賃を渡します。生活保護の人が多いから、一万五千円までの収入は、その人にまるまる入ってくるでしょ。利用者には家にいながらにして、しかも簡単にすぐ終わる「手先の訓練作業」をやって月一万五千円のお小遣いが入る。誰もやめたいとは言いませんよ」
- 「在宅支援もコロナもいつかきつと終わるよ」って言ったら「しばらくは大丈夫。在宅専門の事業所立ち上げようかな？もし終わったら事業所もたためばいいでしょ」って…。その後、利用者はいったいどうなるの？
- ちょっと待った！うちのグループホームは、その利用者の在宅の家なんです。本来、日中活動として就労支援事業所に通っている人が、その時間をグループホームで過ごします。グループホームが、彼らの食事を気かけ、相談を受け、様々なトラブルに対処します。世話をするのはグループホーム。一日に電話二回だけして、一日の利用料報酬を受け取るのは、就労支援事業所。グループホームは日中ただ働きです。
- 就労の在宅支援は、たとえばひきこもりの人や、外出が困難な重度の障がい者には、有効な方法だと思います。でもそれに本気で取り組もうとしたら、ものすごい企画力と人手とお金が必要だと思います。だからそう簡単には手が出せないのが在宅支援です。でも、らくしようと思えばいくらでもらくができる。コロナ禍で苦肉の策として始まった在宅支援でさえ、「簡単な条件さえクリアしておけばできる支援」って飛びつく事業者がいる。儲け志向だとうなるんですね。間ですね。

## 制度や行政の課題も？

- 書類が整えば、どんな事業所でも新規の申請をほぼ受けられるという、今の行政の在り方って、どうなんでしょう？そのエリアの潜在的な利用者の数に対して事業所が多すぎるということ制限をかけている自治体もある。それはある程度の質を担保する上では大事なことだと思う。
- 自分たちの本業が傾いているから、補うために福祉に参入する事業者は、コロナ以降、増えているのでは？それがだめとは言いません。ちゃんと「福祉」をして利用者の「自立」に真剣に取り組んでくれるなら。でも、「自立」なんか後回し、そもそも「自立」とは何か？真剣に考えたことないよね、というところが多すぎる。

## 自立と人間としての誇り

- 儲けてる事業所って、常に満杯のはず。でもなぜか、前を通っても人がいない。監査では、そういうところをしっかりと確認してほしい。
- ケースワーカーの都合で便利に使えるB型事業所にだけ、利用者を紹介するケースワーカーがいる。利用者の「自立」のことは後回し。もちろんよいケースワーカーさんもたくさんいます。
- 同じ法人内の福祉サービスを組み合わせ、利用者を開き込むこともできる。それでいつも満員にしているところもある。
- そもそも就労支援って何なのか？「そもそも」の部分言語化しておかないといけいないんじゃないかな。
- からしだねセンターが福祉サービスを調整するとき、からしだねワークスを紹介しますか？→基本的に、紹介しないです。その理由は、生活相談と就労支援の事業所は、なるべく分けた方が良く、同じではない方がよいからです。就労の場でちょっと背伸びして頑張るかっこいい姿を、家でちょっとかっこ悪い姿とは切り分けてあげたいと思うから。「この人は、からしだねワークスにぴったりはまる」と確信した場合か、他の事業所にお願いするのはちょっと申し訳ないためらう場合を除き、他法人の事業所を紹介するようにしています。

### 障がいを持つ利用者さんへの思い

●働くことって生きることと直結してると思うんです。「この人、ほんとに自分の力で立って、生きたい、って思ってるのかな？」って疑問に思うときがあります。全部与えてもらって、全部やってもらって、何か悪いことが起きたら「それはあなたたちが悪い」って他人のせいにする生き方、本当に楽しいのかなって。それを「障がい者って、そんなもんだよね」ってする社会にもすごく腹が立ちます。人間なのに、一人で立てる人なのに、自分の持っている力を見ないことにして「障がいをもっているから、障がい者は無料で全部してあげよう」とか、「障がい者って、ちゃんとした一人の人」として見ないことに、みんながそれでいいってするの、腹が立ちます。私よりもいろんなこと知ってたりいろんなことできる人が、なんで自分のことを「この程度までしかできません」「私の価値はそれくらいです」といって、自分でできることまで他人に頼って生きていかなあかんのやろって…。

- 「障がいがあるから、暮らしていくだけの収入が得られない」という人は多いと思います。生活保護費はそのためにあります。でも、働ける分は働いて、生活保護費から受ける分を減らし、生活保護受給者でなくなった人もいます。そういうの頑張りを、もっともっと評価できるような生活保護の制度だったらいいのに。
- 「就労支援事業所で一万五千円以上もらっても、一万五千円を超えた分は保護費から差し引かれる。だから一万五千円以上の仕事はしない」と言う人もいます。そうすると、生活保護って、何？就労支援って、何？と考え込んでしまいます。

### 職員のモチベーション・職員のプライド・職員のやりがい

- 福祉の仕事をする人は、まず気持ちで動く、という気がします。私はそういうタイプではないのですが、気持ちが先走るけれど、やるべき事務的なこともあり、それを気持ちについていかせるのが課題だと考えています。
- 福祉の仕事をする人が、「あそこの方が待遇がいいよ」だけで職場を転々とする。おそらくそういう人は、利用者の暮らしや自立についてあまり考えない。待遇や給料は良いに越したことはないですが、「この方が私のやりたい仕事ができるから」と選んでもらえる職場を作っていきたい。そういう職員だけしかいない就労支援の場を作っていきたい。
- 就労支援事業所として、福祉として、絶対譲れない線があります。でも、利用者の自立よりも儲けを優先する事業所に利用者が集まって、譲れない線にこだわっているうちの事業所に利用者が来ない。そろそろ限界を感じます。五年後にうちの事業所、生きていられたのかな？精神的にもぎりぎりです。
- 私のところでは、職員がころころ変わって、新しく入った職員が育たない。仕事を「やらされてる」って感覚の人が多い。どういった研修したら職員が育つのか？管理職の自分を責めています。
- 本音で語れる、相談し合える防空壕のような場がほしいです。最近、管理職の自分が「有給とって遊びに行きます」と言えない。どんどん追い込まれていきます。私がそうなのだから他の職員もそうだと思います。職員とじっくり話をする時間、悩みを共有しあえる時間が、対人援助職だからこそ必要だと思います。でも、そんな時間が取れなくなりました。
- 今日のような集まりは、貴重ですね。悔しさや疑問も共有することで、私はとても励まされました。勇気ももらいました。私が「おかしい」と思っていることを、同じように「おかしい」と思っている人がいることはうれしい。
- 他の職員たちにも、安心してしゃべれる場を提供したいです。そういうことで、第二回もやっていただければと思います。
- 職員間で、本当に伝えたいこと、伝えるべきことを伝えきれていけば、職員のストレスも減ると思います。
- この仕事を、ただ疲労困憊するだけのものにしたくないですね。
- うちは、職員間で話をする方だと思います。朝礼、終礼、職員会議。中心になるのは一人ひとりの利用者さんの支援のことですが、その個々のケースについて意見を出し合うことで、うちの事業所としての支援観や福祉観の根っここの部分を共有できているかなと思います。



### これって、虐待？

- 利用者さんは、最近「お客様」になりつつあります。内職作業で「これできる？」って聞いたら、「できるけど指が痛い」って言われて、以前の私なら「何言ってるの！仕事でしょ！ちゃんとやって！」って言ってたんですけど、最近は「うわあ、虐待や。録音したし、SNSで拡散しよ」ってなります。それで最近では、「〇〇さん、指が痛くなるかもしれないけど、がんばってちゃんとやりましょうね。きっとだいじょうぶですよ」って猫なで声出してる自分がいます。そんな自分を変えたいです。
- 施設内で、利用者さんが許可なくなんでもかんでも録音録画するのって、いいんですか？職員だけではなく、他の利用者さんの声とか動画とかも入ってたり、個人情報のことなんかもあると思うのですが…？
- 仕事中に、ずっとスマホで買い物。ジュース飲みながら携帯いじっている。「作業中は、携帯だめ」と、携帯とジュースを作業中に預かったら、「あー、もうむかつく」って不機嫌になり、後からラインで、「スマホ取り上げられた」って拡散されました。それを見た知り合いのヘルパーさんが虐待通報。スマホとジュースを預かったのはまずかったのかもしれない。でも、なんで、まずうちに状況を聞いてくれなかったのか？虐待防止法の趣旨はよくわかりますが…。通報される側のメンタルもそうとうきついものがあります。そこをケアして、守ってくれる人（機関）が必要です。
- うちでは商品を扱うとき、「これを手にするのはお金を払ってくださいお客様です。もしずれてたり、いいかげんにやってたら、やり直してもらおうか、この仕事から外れていただきます」と言うんです。でもそういうやりとりも、「虐待」と軽く言われる。そういう人たちにも聞いてみたい。「あなたにとっての就労支援って何ですか？」
- 「虐待で訴えてやる」という方向にどんどん行ってしまうのは悲しい。利用者さんと一緒に必死で働いて、ぶつかって、「もう、ここの事業所厳し過ぎるし、私、一般就労する」という人がいて、それで本当に一般就労することになって、よかったねと喜び合ったこともあります。

### これって、虐待？

- 虐待通報されたり、訴えられたりした事業所、けっこう多いみたいですね。もちろん、そこに至るまでの経過に、事業所が反省すべきことはあります。ただ、今までなら、お互いの誤解や理解不足、支援上、不十分だったところを話し合っていて解決していたことが、ある日突然、虐待通報の聞き取り調査、弁護士からの通知なんかきます。ものすごい時間と労力とお金がかかる。訴えられた職員の精神的ダメージは、相当なものです。福祉の支援者の人権を守ることには特化した法律があればいいと思います。
- 支援者や事業所の人権と名誉。暴言を浴びせられても、耐えられない悪口をSNSに拡散されても、耐えられないという状況を何とか変えたいです。
- ものすごくいい働きをして、ものすごくいい支援をしている事業所の職員さんが、虐待通報されて、虐待者にされてしまった。「就労支援事業所と障がい者、地域社会の中で『支援してもらう人』ではなく、地域を『支援する』側に立てる。地域を活性化するための役割を担える」という信念をもって全力で事業をやっている事業所です。虐待通報の内容も「？？？」なんです。虐待通報からの一連の流れに、何か大きな落とし穴がないのかと、ちょっと疑っています。虐待者とされた人に、申し開きする場所が確保されていたらうれしいです。
- 私達自身も考え方を変えなければならないところはある。昭和の「根性」でなんとかかな、みたいなイメージは、捨てよう。
- インターネット上で、他者をとことん追いつめやっつけるような言葉があふれてきている。障がいのある人たちもその言葉にさらされ影響を受けて傷ついていると思います。
- スマホによって、障がいのある人達が危険にさらされることが増えた。その対応に追われて一日が終わるといことも。スマホの誤情報に踊らされたり、騙されたりしている状況は何かしらないといけないです。
- ネット上の「あそこは工賃が高い」とか「食べ放題」とかいう言葉に右往左往して、じっくり腰を据えて就労訓練に取り組めない人もいます。

### 障がいを持つ利用者さんへの思い

- 「仕事に喜びなんていらないう。しんどい思いしてまでがんばりたいとは思いません」という人が、がんばったからこそ味わえる喜びがあることを、知ってほしいと思って、支援している。
- 以前、ハンバーガーショップに捨て置かれた無料券を集めて、他の利用者さんも引き連れて、無料券だけでハンバーガーを食べに行こうとした人がいました。「それは、よくないと思う」と職員が言っても「犯罪じゃないの、何か悪いの？職員に止める権利あるの？」と言われて…。でもその時、パシッと、「私はそんなことしたくない。自分で働いたお金でハンバーガーを買う」と言った人がいて、それでスカッと終了。人としての誇り、生きていく上での矜持、そういうものを大事にしている人でした。



<2022年12月06日~2023年8月9日>

【ご寄附者様】

青田 勝彦様 恵子様  
石内 千尋様  
井上 京子様  
インマヌエル京都伏見教会様  
榎本 貴夫様  
株式会社エナテクスサービス様  
北村 栄一様  
ギデオン協会京都支部様  
木場田 幸子様  
君村 昌様  
窪 俊昭様  
竿代 ひろみ様  
シャピロ ミナ様  
杉島 佳子様  
田華 紘一様  
田村 久子様  
出村 紫野舞様  
那須 佳子様  
鍋島 愛信様  
生川 鉄平様

新山 和子様  
野田 秀様  
深谷 与那人様  
藤井 茂様和子様  
藤田 明子様  
冬木 久恵様  
不破 弘様  
保福 悦子様  
松井 孝典様  
松田 和代様  
松盛 澄男様  
ミッションからしだね後援会様  
山崎 信義様 恵子様  
山本 裕子様  
吉村 和記様  
株式会社 Motion Info. 様  
株式会社ワイルドローパー様  
匿名様  
【後援会ご協力者様】  
浅野 純江様  
一村 洋子様

井上 京子様  
榎本 貴夫様  
兼松 哲夫様 好子様  
北村 栄一様  
桐山 起世子様  
窪 俊昭様  
柴田 珠江様  
杉浦 孝夫様  
杉島 佳子様  
田華 紘一様  
田村 久子様  
辻 貴子様  
出村 紫野舞様  
那須 佳子様  
新山 和子様  
野村 武夫様  
深谷 与那人様  
藤田 明子様  
松井 孝典様  
松田 和代様  
水野 健様  
宮崎 佳文様

矢嶋 喜美子様  
吉田 功様  
李 喜恵様  
渡邊 日登美様  
松本 聡子様

【CLCからしだね書店 支援ご協力者様】

青木 理恵子様  
浅野 純江様  
奥野 泰孝様  
柴田 珠江様  
杉浦 孝夫様  
藤田 明子様  
宮崎 佳文様  
森本 典子様  
匿名様

万が一、漏れがございましたら  
ご一報くださいますよう、  
よろしくお願いいたします。



「社会福祉法人ミッションからしだね」は、社会の様々な課題にも積極的に取り組んで行こうとしています。後援会はこの働きを支える「力」として、ご協力ください。からしだねの機関誌の他、ブックカフェの情報、催し物のご案内などをお届けします。

後援会にご協力を...

年会費 個人様 1□ 3,000円  
          団体様 1□ 10,000円  
会費振込先 郵便振替  
□座番号：00970-2-222380  
加入者名：社会福祉法人ミッションからしだね後援会

後援会入会・継続には、同封の振込用紙をご利用ください。寄付金控除領収書を希望の方は、振込用紙の通信欄に「寄付用領収書希望」とお書きください。

※既にお振込みいただいている会員様は、お見過ごしてください。

CLC書店だより  
連載中の

こどものための神の  
ものがたり

で挿絵を描いています!!

「森住ゆき和紙ちぎり絵カレンダー」  
2024年版店頭にて販売いたします。

森住ゆき和紙ちぎり絵カレンダー  
2024年版CLCからしだね書店で販売中!!



MORIZUMI YUKI  
CHIGIRI-E CALENDAR 2024  
森住ゆき 和紙ちぎり絵カレンダー

1320円(税込)ご予約も承っております、お早めどうぞ。  
FAX 075-574-0025  
書店メール clc@karashidane.or.jp

からしだね館のホームページにアクセス  
みるみる



編集後記

◆今回は、からしだねワークスがずっと取り組んできた「就労支援」について考える特集を組んでみました。いかがだったでしょうか。福祉の就労支援は、一般社会の就労と重なり合っています。私たちはなんのために「働く」のか?考えるきっかけになればと思います。◆国連のアントニオ・グテーレス事務総長が、「地球温暖化は終わり、地球沸騰化の時代に入った」とコメントしているそうですが、今年の夏は確かに沸騰の状態が続いているように思います。未来を生きる人たちのために、今、私にできることは何か?地球人として、行動したいと思います。◆どうぞ皆様、暑さや感染症に負けず、心身ともに健康にお過ごしください。[M.S.]

次号は2023年12月の予定です!